

# 「大坂の史跡を訪ねて」

連載44回目

おさたに よしはる  
長谷 吉治

## 榑崎 龍 武勇伝の地 <sup>どぶいけ</sup> 井池

中央区南船場 3-7

坂本龍馬の妻 お龍の回顧録「続反魂香(四)」には次のような記録が残っています。

(途中省略)お良は還って見ると、妹の光枝が居ませむから、如何したのかと母に聞くと、これこれと訳を話しましたので、そりゃ大変です。

(途中省略)お良は、宜しいお母さん、御心配なさいますな、妾(わた)しが行って取り返して来ますからと、金子を調べて、先ずお吉(光枝をさらって売り飛ばそうとする狼婆)の家へ行き、此処で亭主と言ひ争った末に、愈大坂の居処が知れて、お良は大坂へ渡り、ドブ池といふ処に、お吉と他に男が三人無頼漢(ごろつき)風の奴が、光枝を取りかこむで何か言っ居ります処へ、突然坐りこむで白眼(にら)み廻すと、流石の四人も不意にお良が来たので、唯、呆然と仕て居りました。

臈(やが)て口を開き、おいお前さん方は、何たつて妹をこんな処へ連れてきたんです。母に聞けば大家へ小間使ひにやるとかいふそうですが、妾(わた)し眼の黒い内は、めつたに妹を他処へは遣りませむよ、さあ、妾(わた)しが妹を連れて帰りますから、其積りで居て下さいと、立上がって妹の手を執ると、一人の男が、矢庭にお良の腕を捉へて、やい阿魔(あま)、何でい、此女を如何するといふんでい、と眼を怒らせて今にも飛かゝらむ勢ひ。お良は平気で、何だとい、此女を如何する、フン自分の妹を自分が連れてゆくに何が如何したとお言ひだい、ふざけた事を言ひなさむな。

(途中省略)

傍らにあった火鉢を執って投げつけますと、ぱつと上る灰神楽。即意即妙の目つぶしに、三人とも目をやられて、言ひ合したやうに台所へ馳せゆく隙を窺ひ、光枝の手を執って表へ出ますと、お吉婆が、背後から帯を捉えて引戻そうとするやつを、エイッと蹴飛ばして逃げ出し、八軒家の京屋といふ船宿に飛び込むで、三十石船に乗り京都へ帰って我が家へ着きました。



前述のお龍の回顧録「続反魂香(四)」に出てくる地名ドブ池とは、「井池」という字を書きます。

御堂筋から東に3本目の南北の筋が三休橋筋です。その間の2本目が「井池筋」にあたります。

「芦間(あしま)の池」という泥池があり、それが訛って「どぶ池」と呼ばれるようになりました。

名残として芦池小学校がありました。

芦池小学校は統合により、今は現存しません。

芦池小学校は現在の大阪府中央区南船場3丁目7番あたりにあり南船場会館の東側あたりに該当します。

このあたりの可能性が高いと思われます。



井池跡ゆかりの碑

龍馬の手紙には次のような記載されています。

京のはなし、然るに内々ナリとし、(途中省略)十六ニなる女ハだまして母にいゝふくめさせ、大坂に下し女郎ニうりしなり。

(途中省略)

夫おあねさとりしより、自分のきりものをうり、其錢をもち大坂にくだり、其悪もの二人をあいてに死ぬるかくごにて、刃(ハ)ものふところにしてけんくわ致し、とふとふあちのこちのといゝつりければ、わるものうでにほりものしたるをだしかけ、ペラボヲロ(グチ)にておどしかけしに、元より此方ハ死かくごなれば、とびかかりゝて其者むなぐらつかみ、かをしたかになぐりつけ、日(イハ)ク其方がだまし大坂につれ下し妹をかへさずば、これきりであると申ければ、わるもの曰ク、女のやつ殺すぞといゝければ、「女曰ク、殺し殺サレニはるばる大坂ニくだりてをる、夫ハおもしろい、殺せ殺せといゝけるニ、さすが殺すというわけニハまいらず、とふとふ其いもおうけとり、京の方へつれかえるたり。

(途中省略)

右女ハマことにおもしろき女ニて月琴おひき申候。

(以下省略)

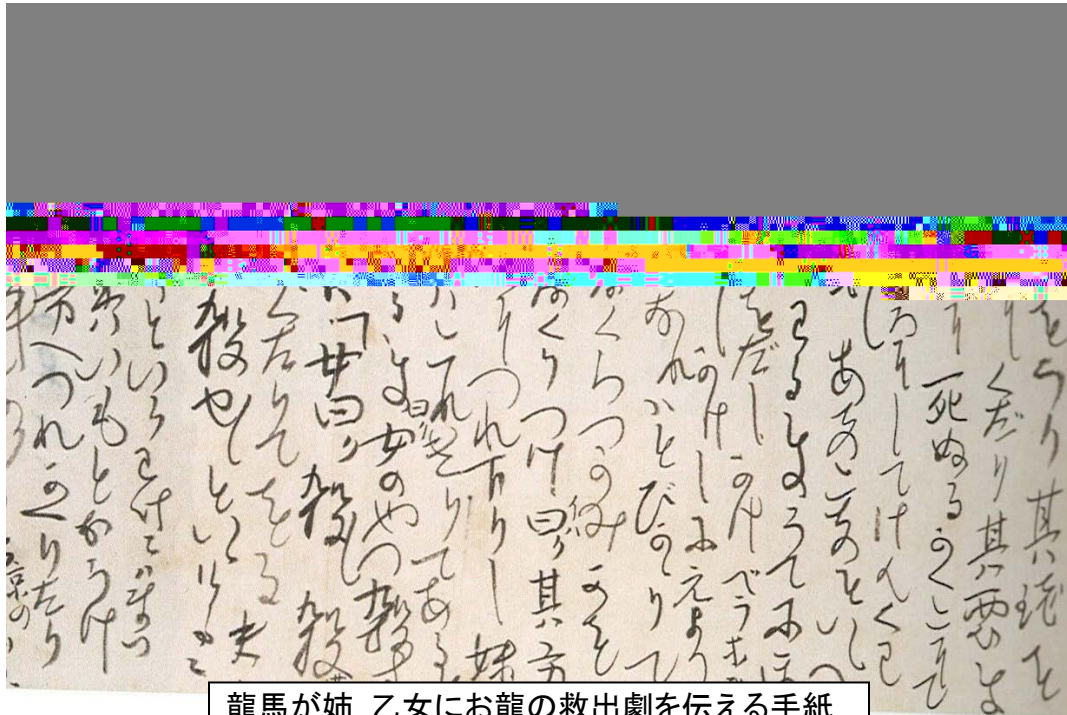
慶応元年九月九日

乙あねさん

おやべどん

龍





龍馬が姉 乙女にお龍の救出劇を伝える手紙

## お龍の母 榎崎 貞 住居跡

中央区上本町西 4-1-2(大念寺周辺)

お龍の再婚した夫 西村松兵衛の除籍簿写には、次のような記載があります。

明治八年十一月二十三日  
大阪府下大六第九一小区上本町  
榎崎て以ノ孫入籍  
養嗣子松之助 明治七年八月十五日生

「大阪府下大六第九一小区上本町」という地名は存在しませんでした。「大阪府下第六大区一小區」であれば、かつて地名が存在していました。

その一番組「吉右衛門肝煎地」があり、その後、住居表示の変更で上本町一丁目になっています。町名変更がかなりあったようですが、決め手は昔あった「清堀校」が配当する地名にあった「大念寺」で、今も大念寺は現存します。

お龍が西村松兵衛と再婚して、すぐに母 貞とお龍の妹 光枝の子 松之助を引き取り、横須賀に移りました。

貞は明治 24 年(1891)に亡くなり、お龍と同じ信樂寺に永眠しています。



大念寺周辺



# 大久保利通揮毫による小楠公墓碑

四條畷市雁屋南町 27-5(小楠公墓地)

南朝：正平3年・北朝：貞和4年(1348)1月5日、南朝の武将として活躍した楠木正行(楠木正成の嫡男)が「四條畷の合戦」で戦死しました。

戦死の地は大東市錦町附近(旧の地名は「字ハラキリ」でした)あたりとされています。

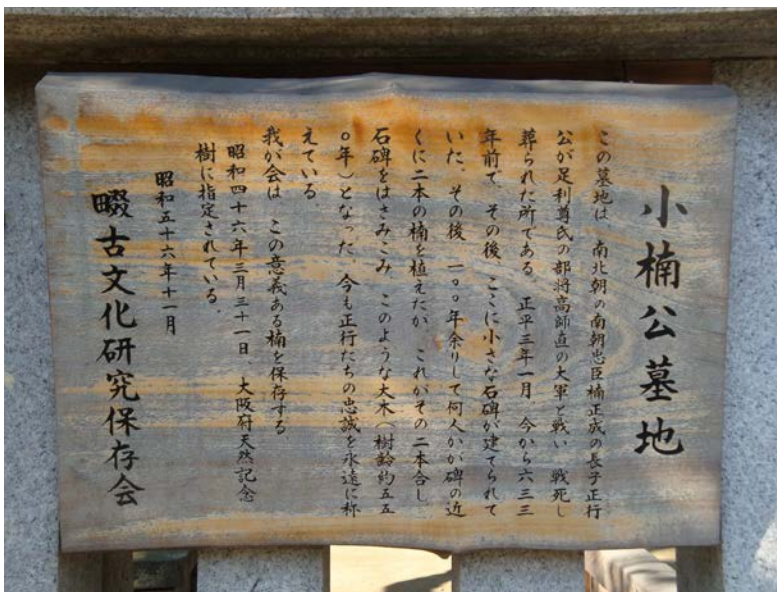
墓所は、戦没の地から北で、現在の四條畷市雁屋南町にあります。その場所はもともと古墳塚があり(江戸期は代官陣屋がありました)、文字が刻まれた小石と、植樹された楠樹が「供養塚」として建てられました。

楠木正成が明治政府によって「大楠公」(だいなんこう)として神格化されたのに伴い、遺志を継ぎ命を落とした正行も「小楠公」(しょうなんこう)として崇められるようになり、「忠君愛国」の象徴とされました。

現墓所の入り口には、右手に「忠」、左手に「孝」を刻んだ石柱があり、敷地内には、「楠公父子訣別之所」と記された“墓石”、「贈従三位楠正行朝臣之墓」(原文のまま)と記された大きな碑と、楠樹の巨木(樹齢600年、大阪府指定の天然記念物=府文化財)があります。



楠樹と小石(供養塚)



楠木正行(小楠公)像

明治5年(1872)湊川神社が竣工。それを受けて地元の住民が、小楠公社の設立の請願書を提出し明治7年に許可が下ります。

